

## 金融商品との付き合い方（第4回）

# 外貨建て金融商品の魅力と注意点

### 為替リスクに注意

外貨建て金融商品とは、米ドルやユーロ、オーストラリア・ドル（豪ドル）など外貨建ての金融商品をいいます。

具体的には、外貨預金、外国債券、外国株式などが代表的な商品です。いずれも、基本的な商品内容は円建ての同タイプの商品と同じです。

ただし外貨建ての商品ですから、円ベースの収益は為替相場の影響を強く受けます。投資した通貨が円に対して高くなれば（Ⅱその通貨に対して円安になれば、例えばドル高円安になれば）、為替差益が得られ、高いリターンが期待できます。逆に、投資した通貨が円に対して安くなれば（Ⅱその通貨に対して円高になれば、例えばドル安円高になれば）、為替差損を被り、大きな損失を被ることがあります。



目黒 政明

ファイナンシャル・プランナー  
MMI ライフ&マネープランニング代表

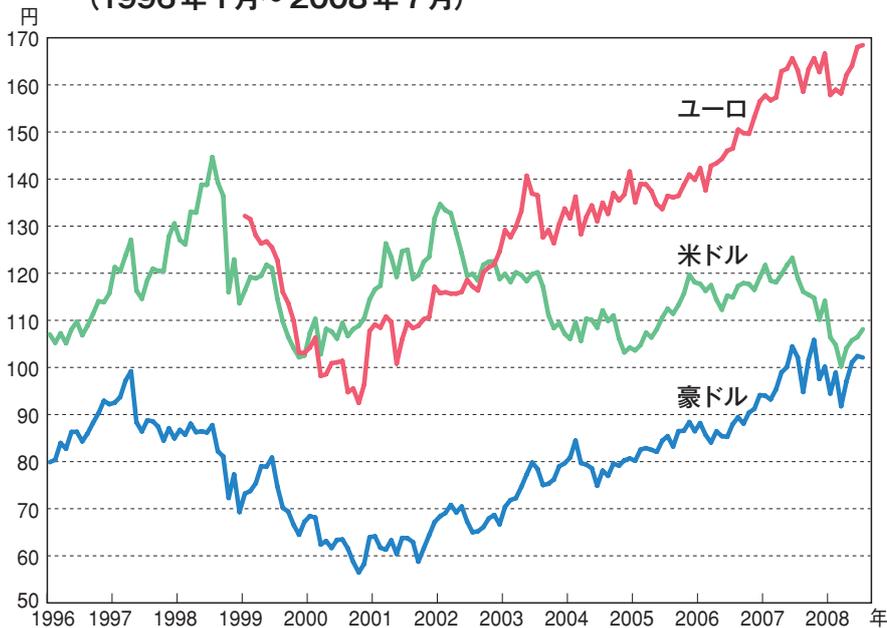
【めぐろ まさあき】1959年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、大和証券などを経て、1992年、MMI ライフ&マネープランニングを設立し、取締役就任。相談業務の他、原稿執筆、セミナー講師などを務める。主な著書に『実戦的「投資信託」入門』（ダイヤモンド社）、『90分でわかる金利・利回り計算の本』（かんき出版）、『退職金はこうして運用しなさい』（共著、ダイヤモンド社）などがある。

図表1を見ていただければ分かる通り、為替相場は数年間という期間で見ると、円安方向にも円高方向にも大きく動いています。外貨預金や外国債券に投資すれば、外貨ベースでは確実な利息収入が得られますが、為替変動によって円ベースの収益は大きく左右されます。円安になれば、利息収入に為替差益が加わって高いリターンが得られます。逆に、円高が進めば、為替差損によって円ベースで元本割れすることもあります。

また外国株式に投資すれば、外貨ベースで株価が上昇し、さらに円安が重なれば、ダブルで儲かり大きな値上がり益が得られます。しかし、株価の下落と円高が重なれば、ダブルパンチで大きな値下がり損を被ります。

外貨建て金融商品に投資する場合は、その商品の特徴や値動き以外に、為替

図表1 米ドル・ユーロ・豪ドルの為替相場（月末値）の推移  
（1996年1月～2008年7月）



※ユーロは1999年1月に、ドイツ（マルク）、フランス（フラン）などの通貨を統合して生まれた欧州単一通貨で、現在はヨーロッパの15カ国で使われています。

相場にも注意を払う必要があるわけ、国内の円建て商品に投資する場合に比べ投資判断は難しくなります。

### 為替手数料を理解する

外貨建て商品に投資するに当たって、必ず理解しておく必要があるのは為替手数料の存在です。

一般的に、外貨建て商品に投資する場合、多くの人は手元に米ドルやユー

ロなどの外貨を保有していないので、まず円を外貨に換えて外貨建て商品を購入入します。この時に適用される為替レートをTTS（対顧客電信売相場）といえます。

一方、外貨建て商品の利息や満期金、売却代金などは外貨で支払われます。受け取った外貨をそのまま外貨建ての商品で運用し続けることも可能ですが、一般的にはタイミングを捉えて、どこかで外貨を円に換えて受け取ります。この時に適用される為替レートをTTB（対顧客電信買相場）といえます。

注意すべきなのは、TTSとTTBの間には開きがあるということです。

まず各金融機関では、その日の実勢相場を基として、顧客と為替取引をする場合の基準レートを毎日決めていきます。この基準相場を仲値といいます。

その際、例えば銀行で米ドル建て預金をする場合、仲値が「ドル110円」だとすると、TTSは仲値に「円加えたドル111円」、TTBは仲値から「円引いたドル109円」とするのが一般的です。つまりTTSとTTBの間には二円の開きがあります。

この例の場合、ドルにつき110円出して米ドル建て預金に預けることになり、仮にそのドルをすぐに円に戻す場合は「ドル110円」のレートが適用されます。実勢相場（仲値）が全く変

動しなかったとしても、110円出して109円しか受け取れないので、投資家は二円損することになります。

これは円↓米ドル、米ドル↓円の取引でそれぞれ（片道）一円ずつ、往復で二円の為替手数料がかかっているためです。この為替手数料は金融機関の収益になります。つまり米ドル建て預金の場合、預入時に比べて実勢相場が二円以上円安にならないと、為替差損を被ることになります。

TTSとTTBの開き（＝為替手数料）は、図表2にある通り、通貨によって、また金融機関によって違いがあります。同じ金融機関でも、ボーナス時などにキャンペーンとして割り引く場合もあります。いずれにしても為替手数料が収益に及ぼす影響は大きいので、為替コストの差も意識して取引する金融機関を選ぶようにすべきです。またマイナーな通貨ほど為替手数料が高いので注意が必要です。

### 外貨建て金融商品の魅力

円安による為替差益狙いを別とすると、外貨預金や外国債券など、外貨建てで確実に利息が付く商品の最大の魅力は海外の高金利が得られる点にあります。日本では相変わらず低金利が続いていますが、海外には金利の高い国が多く、外貨預金や外国債券に投資す

れば、海外の高い金利が得られます（図表3、4参照）。

外国株式投資の魅力としては、次のような点があげられます。

①マイクロソフト、IBM、GEなどの世界的優良企業への投資ができます。

②日本にない魅力的な企業への投資ができます。例えば、海外には配当利回りが六〜七％という非常に高い配当をする企業もあります。

③日本の経済成長率はかなり低下してしまいましたが、海外には高い経済成長を続けている国があります。高度成長期の日本株式が高いリターンをあげてくれたように、海外の高い経済成長が期待できる国の株式に投資して、期待通りに経済成長が続けば、高いリターンが期待できます。

④世界的な分散投資によるリスク低減効果が期待できます。例えば日本株式は一九九〇年以降、長期にわたって下落傾向となつてしまいましたが、同時期の外国株式は上昇傾向でした。日本株式だけでなく外国株式にも投資していたほうがリスクは低減できていたこととなります。

### 投資信託を活用する

外貨預金は外貨建てであることを除けば、円建ての預金と基本的な商品内容は同じなので、その内容を理解しや

すく、個人でも取引を始めやすい商品です。しかし、外国債券や外国株式の個別銘柄に個人が直接投資するのは、かなり難しいのが実情です。

例えば、外国株式は日本株式に比べて圧倒的に情報量が少ないので、どの銘柄をどういったタイミングでどのよう

に売買すればよいか、という判断を個人投資家が下すのはきわめて難しいでしょう。またアメリカなどの主要国の株式は個別銘柄に直接投資することもできますが、例えばインド株は規制があるため個人投資家は直接投資できません。

外国債券についても、アメリカ国債であれば証券会社を通して直接購入することは可能です。しかし、その他の国の債券は個人向けにあまり品揃えされていないので、希望する債券を買うのはけっこう難しいのが現状です。それでもイギリスやドイツ、フランス、オーストラリアなど主要先進国の国債であれば、満期までの期間にこだわらなければ直接買うことは可能です。しかし新興国の国債や海外の社債などは、個人が希望どおりに直接買うのはきわめて困難です。

こうした難点を解決してくれるのが、専門家が投資家に代わって運用してくれる投資信託という商品です。投資信託を利用すれば、個人では投資できな

い、あるいは投資することが難しい国の株式や債券などに投資できます。また運用を専門家に任せるので、個別銘柄に関する知識も不要です。さらに、個別銘柄に直接投資する場合は、それなりの投資金額が必要とされますが、投資信託であれば一万円以上といった小口の金額で投資できます。

つまり投資信託を利用すれば、手軽に外国の株式や債券などに投資できるわけで、個人が外国証券への投資を考

える場合は投資信託の活用を考えた方がよいでしょう。なお、投資信託については次回詳しく取り上げます。

### 為替リスクとの付き合い方

外貨建て商品に直接投資するのであれば、投資信託を通して外国株式や外国債券に投資するのであれば、外貨建ての商品に投資する場合は為替リスクと上手に付き合っていく必要があります。

為替リスクへの対処法としては、①複数の通貨に分散する、②長期保有を心がける、③購入時期を分ける、といったことが有効です。

まず、特定の通貨建ての商品だけに投資をしていると、その通貨に対する為替変動の影響をストレートに受けま

す。例えば、ユーロや豪ドルが円に対して強くなっても、米ドルは円に対して売られる（ドル安円高）ということがあり

図表2 主要金融機関のTTSとTTBの開き

	三菱東京UFJ銀行	三井住友銀行	みずほ銀行	野村証券	大和証券	日興コーディアル証券
米ドル	2円	2円	2円	1円	1円	1円
ユーロ	3円	2.8円	3円	1.5円	1.6円	1.6円
豪ドル	4円	5円	5円	1.6円	2円	2円

※キャンペーン等による優遇が適用されない場合

図表3 三井住友銀行の預金金利 (2008年8月26日現在)

	普通預金	定期預金				
		1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
円建て	0.20%	0.25%	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%
米ドル建て	0.25%	0.8285%	0.9400%	1.1631%	1.3557%	1.5078%
ユーロ建て	0.25%	2.7482%	3.0118%	3.1943%	3.3768%	3.4275%
豪ドル建て	0.50%	5.2931%	5.3944%	5.4249%	5.4451%	5.4756%

※円建て定期預金は、預入金額300万円未満のスーパー定期の標準金利  
外貨建て定期預金は、10万米ドル相当額未満のパーソナル外貨定期預金の標準金利

図表4 国債の金利

①日本国債(2008年8月の新発国債)の利回り

2年中期国債	5年中期国債	10年長期国債
0.758%	0.973%	1.483%

②野村証券の外国国債の販売例(2008年8月26日現在)

	満期までの期間	利回り
米国国債	1年5ヵ月	1.78%
	4年5ヵ月	2.75%
	9年8ヵ月	3.95%
ドイツ国債 (ユーロ建て)	1年7ヵ月	3.69%
	4年10ヵ月	3.71%
	8年10ヵ月	3.88%
オーストラリア国債	1年11ヵ月	5.22%
	2年9ヵ月	5.20%
	8年5ヵ月	5.46%

得ます。したがって米ドル建ての商品だけで運用するのではなく、ユーロ建てや豪ドル建ての商品にも投資したほうがリスクは軽減できます。  
次に、外貨預金や外国債券などは、元利金を同じ通貨建ての商品で再運用

し複利運用することが可能です。この場合、長期保有すればするほど、外貨建ての元利金は確実に増えていきます。例えば当初、一万ドル分投資したとして、外貨ベースの元利金は時の経過とともに、一万一〇〇〇ドル、一万二〇〇〇ド

ルと増えていきます。その分、多少円高に振れても円ベースで収益を確保することができます。長期保有することによって、円高に対する抵抗力

が高められるというわけです。また為替相場は円高と円安を繰り返しており、長期で見れば循環的な動きをしています。したがって円安のタイミングを待てる余裕資金で投資することも大事です。  
最後に、為替相場の見通しはプロでも難しいので、高いところでまとめて購入してしまわないように、購入する時期を分けて、少しずつ投資したほうがリスクは低減できます。時間分散も心がけるといことです。